

# 熊本テクノポリス 新たななるステップへ

全国二十六カ所のテクノポリスの中でも熊本テクノポリスは、試み、実績ともに高い評価を受けています。熊本テクノポリス計画が国の承認を受けて今年で十年。これを記念してさまざまなイベントが九月から十二月にかけて開催されています。今回は、熊本テクノポリス計画を振り返ります。



四方を緑に囲まれたテクノリサーチパーク。右上に見えるのは熊本空港

## テクノポリスの誕生

### 先端技術の集積

昭和五十八年十一月、「熊本テクノポリス財団」の設立以来、全国最大規模の基金造成が図られ、研究開発や人材育成の支援、テクノリサーチパークの建設など、活発な事業が展開されてきました。

県工業技術センターはもとより、電子応用機械技術研究所（電応研）、熊本大学地域共同研究センター等の研究開発機関や、くまもと科学技術振興クラブ、熊本知能技術システム研究会、バイオテクノロジ研究推進会などによる産学行政交流の推進も、本県の工業振興に大きな役割を果たしてきました。



点字読取り装置

また、テクノ圏域への企業誘致も順調に進められ、先端技術の集積が形成されつつあります。

十周年記念行事では、「地域産業における知能化、ロボット化戦略」と題した「知能システム熊本シンポジウム'94」ほか、コンサート、パザール、ウォークラリーなどを盛り込んだ「テクノリサーチパークフェスティバル」などが開かれました。

## これからの熊本テクノポリス

### 起業化の推進

近年のアジア諸国の経済的台頭や円高の進行により、産業の空洞化が懸念され、地域経済にも深刻な影響を及ぼすと予想されています。

第二期テクノポリス計画では、これに対応するため、地域企業の技術力を高め、新製品の開発や新分野の開拓による起業化を積極的に進めることとしております。主要な事業として、地域企業の起業化を支援する拠点づくり、第二テクノパークの建設に取り組んでいます。

菊陽町と合志町にまたがる地域に造成予定の、第二テクノパークは、「緑の中の起業空間」をテーマに、生産・研究開発用地としての企業立地ゾーンと、アメニティあふれる緑地ゾーンとで構成。現在、平成七年度後半の一部分譲開始を目指し、建設を進めています。

さらに、これまで十年間にテクノポリス圏域に蓄積された技術を、計画的に広く県内一円に波及させる事業や産学行政の連携によるプロジェクト研究にも着手しました。



第2テクノパーク完成予想図

**\* 誘致企業の動向 (S59~H5)**  
全県268件 うちテクノ圏域112件

**\* 指標の推移 (テクノ圏域内)**  
工業出荷額 5,011億円 (S55)  
→12,414億円 (H4)  
工業従業者数 35,731人 (S55)  
→44,430人 (H4)

**\* 電応研の研究開発 (S61~)**  
特許出願60件  
企業への技術移転3件  
県内企業への技術指導41件  
技術相談141件

最近の研究開発実績  
・みかん糖度測定選果システム開発  
・3次元視覚センサー付き無人運送車の開発  
・点字読取装置

## \* 熊本テクノポリスのあゆみ

- S57.1 熊本テクノポリス基本構想発表
- S58.6 熊本テクノポリス開発構想発表
- 11 (財)熊本テクノポリス財団設立  
(財)熊本テクノポリス技術開発基金設立  
熊本テクノポリス建設協議会発足
- S59.3 テクノポリス開発計画承認
- 7 テクノリサーチパーク造成工事着工
- S60.4 電子応用機械技術研究所オープン
- S61.4 テクノリサーチパーク分譲開始
- 11 テクノポリスセンターオープン
- S62.7 電応研と地元企業との共同研究第1号スタート
- S63.5 熊本大学地域共同研究センターオープン
- H2.3 テクノリサーチパーク(1大学、14企業)分譲完了
- H4.4 第2期計画承認  
第2テクノパーク事業着手
- 5 バイオ研究開発基金創設
- H5.3 テクノリサーチパーク北側用地造成開始
- 5 第8回全国テクノポリスシンポジウム開催
- 10 テクノリサーチパーク北側用地分譲開始  
第2テクノパーク基本計画公表
- H6.3 テクノリサーチパーク北側用地第1号企業立地決定
- 6 生活・地域流動研究(科学技術庁)採択
- 8 先端技術波及促進事業スタート



香港フェアより

ン。首都圏の情報発信拠点として、熊本のイメージアップ、熊本ファンの獲得へと期待を寄せています。国外に目を転じますと、十月二十四日から、今年で五回目を迎えた「香港フェア」が開幕、現地で物産展と産業観光展を催しました。近年、中国、東南アジア地域の経済発展はめざましく、本県もFAZ(輸入促進地域)に指定されたこともあり、地域への関心は日々高まっています。そこで、今回はこれに併せて、来年一月からの香港駐在員事務所開設もPR。地元への関心の高さ、歓迎ぶりを感ずることができました。今後、駐在員事務所を生かしたこれらの地域との交流を進めていきたいと思っております。

最後になりましたが、長期におよぶ渇水のため、いまだ給水制限で不自由なさつていらっしゃる方も多そうです。重ねてお見舞い申し上げます。

## 知事室から

熊本テクノポリスは順調に進み、今年十年という節目の年を迎えました。

本県は「西暦二〇〇〇年の製造品出荷額四兆円」を目指して、多くの事業を展開しています。このテクノポリス計画はその大きな柱として位置づけられます。これまでの十年は最先端技術の集積を中心に進めてきましたが、今後は進出企業との連携による地域企業の振興にもさらに力を注いでまいります。そのため、このテクノポリス計画の拠点として第二テクノパークを建設、目標の達成を目指します。

先日、「美味かずにばる」も閉幕。先に相次いで行われた「賑やかにばる」「県民文化祭」とともに秋に彩りを添え、「くまもと秋の祭典」は幕を下ろしました。九日間にわたり繰り広げられた「県民文化祭」。わたしも最終日にやつと会場に足を運ぶことができたが大変な賑わいに驚きました。そして、わたし個人としては、今回県内初の試みとなった「車いすダンス」、演じる皆さんの笑顔が忘れられないものとなりました。

そのほか県外でも新たな動きが目立った秋でした。十月四日には東京銀座の「銀座熊本館」がリニューアルオープン